

# アルツハイマー性痴呆傷病の最近5年間の診療 現況

이근정 (イクンジョン) 李謹呈 主任研究員  
統計情報センター政策分析チーム



## 1. はじめに

○ 急速な人口高齢化と平均寿命の延長で痴ほう患者も急増している。2012年現在我が国の65歳以上の老人人口中、痴ほう患者は 53万4千名と推定される。痴ほう患者の増加速度は老人人口の増加速度より早く、この4年間で老人人口が17.4%(2008年 5,016千名→2012年 5,890千名)増加する間に、痴ほう老人は26.8%(421千名→534千名)増加し、2025年には 100万名を超えると見込まれる(表1参照)。

表1. 痴ほう老人の増加推移及び見込み (単位：千名)

구분	2008년	2010년	2012년	2020년	2025년	2030년	2040년	2050년
65歳以上人口								
65세 이상 인구수	5,016	5,357	5,890	8,084	10,331	12,691	16,501	17,991
65歳以上痴呆老人数								
65세 이상 치매노인수	421	469	534	794	1,033	1,221	1,851	2,379
痴呆有病率								
치매 유병률(%)	8.4	8.8	9.1	9.8	10.0	9.6	11.2	13.2

資料:保健福祉部 「第2次国家痴ほう管理総合計画」2012

○ 痴ほう患者の急速な増加によって痴ほう治療のための診療費も急増している。2012年1分期の基準疾病別総診療費の上位30項目の前年同期対比増加率を分析した結果、痴ほう患者の中で一番多いパーセントを占めるアルツハイマー病の痴ほう(F00)疾病の総診療費は30.4%増加し、脳血管疾患の後遺症(I69)に続き二番目に高い増加率を見せている。アルツハイマー性痴ほう疾病の診療費増加率は2011年1分期基準総診療費増加率分析で、前年同期対比27.0%増加し、2番目に高い増加率を記録した。このように痴ほう患者の急増と痴ほう治療のための診療費増加によって社会的・経済的負担もまた急激に増加しており、これに対する政策的代案が必要である。

表2. アルツハイマー性痴ほう傷病の来院日数及び総診療費変化の(2007-2011)  
(単位：千人、日、%)

구 분		2007년	2008년	2009년	2010년	2011년
총진료비	합계	111,099,838	185,458,879	253,907,814	330,376,888	404,126,758
	(전년대비 증가율)	(80.7)	(66.9)	(36.9)	(30.1)	(22.3)
	입원	94,946,522	166,312,309	229,837,353	301,974,706	370,629,906
	(전년대비 증가율)	(92.5)	(75.2)	(38.2)	(31.4)	(22.7)
	외래	16,153,316	19,146,570	24,070,461	28,402,182	33,496,852
	(전년대비 증가율)	(32.8)	(18.5)	(25.7)	(18.0)	(17.9)
	내원일수	1,992,386	3,214,541	4,285,080	5,219,200	6,255,048
(전년대비 증가율)	(66.5)	(61.3)	(33.3)	(21.8)	(19.9)	
내원일수	입원	1,742,344	2,913,223	3,861,036	4,683,105	5,575,884
	(전년대비 증가율)	(76.0)	(67.2)	(32.5)	(21.3)	(19.1)
	외래	250,042	301,318	424,044	536,095	679,164
	(전년대비 증가율)	(21.1)	(20.5)	(40.7)	(26.4)	(26.7)
내원일당진료비	55,762	57,694	59,254	63,300	64,608	
(전년대비 증가율)	(8.6)	(3.5)	(2.7)	(6.9)	(2.1)	

○ 알츠하이머성痴ほう傷病의診療실인원수를分析した。알츠하이머성痴ほう傷病의入院患者수는 2007년 14,514人から 2011년 36,247人に 2.5倍に増加した。前年比入院患者数の増加率をよく見れば 2007年に前年比 62.0%、2008年に前年比 53.4%で大きく増加し、2009年以後 10~20%의 持续的増加傾向を見せている。外来患者수는 2007년 47,114人から 2011년 125,926人に 2.7倍に増加した。前年比外来患者数の増加率をよく見れば 2009年に前年比 35.4% 増加し、以後 30% 以内의 増加率を見せている。入院患者数と来院患者数の割合をよく見れば 2011년基準入院患者수가 22.4%、外来患者수가 77.6%를 占め、外来患者수가入院患者数より3.5倍ほど多い。

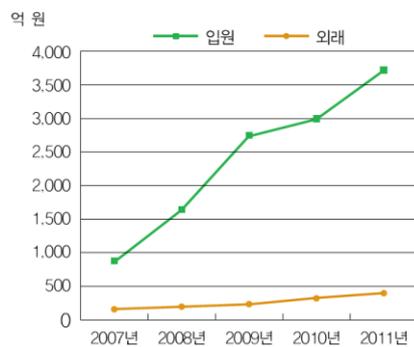


図1. 年度別알츠하이머성痴ほう傷病總診療費増加推移 (単位：億ウォン 入院、外来)

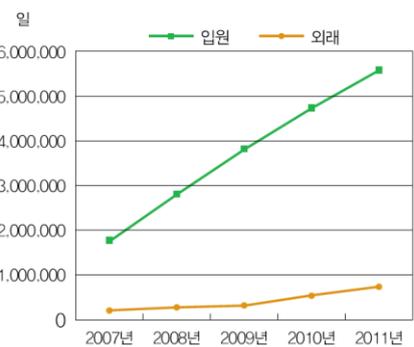


図2. 年度別알츠하이머성痴ほう傷病来院日数増加推移 (単位：日 入院、外来)

表3. 알츠하이머성痴ほう傷病의診療실인원수の変化(2007-2011) (単位；名、%)

구 분	2007년	2008년	2009년	2010년	2011년
入院 (前年对比増加率)	14,514	22,270	26,791	30,219	36,247
(전년대비 증가율)	(62.0)	(53.4)	(20.3)	(12.8)	(20.0)
외래 (前年对比増加率)	47,114	58,845	79,683	101,285	125,926
(전년대비 증가율)	(20.8)	(24.9)	(35.4)	(27.1)	(24.3)

○ 以上のアルツハイマー性痴呆ほう傷病の総診療費及び来院日数、診療実人員数に対する分析結果、2007年対比 2011年の総診療費は 3.6倍に大きく増加し、同期間中来院日数は3.1倍に増加した。全体の診療費の 90%以上を占めている入院の場合、同期間来院日数は3.2倍増加し、実入院患者数は 2.5倍に増加した。来院日当たりの診療費は 1.2倍の増加に過ぎなかったため診療行為の価格上昇がアルツハイマー性傷病の総診療費増加に大きい影響を及ぼさなかったと見られる。

来院日数と入院患者数の変化を見れば入院患者数の増加率より来院日数の増加率がさらに高く現われたので来院日数の増加が総診療費増加により多い影響を及ぼしたと見られる。

### 3. アルツハイマー性痴呆ほう傷病の療養機関種別総診療費及び来院日数

○ アルツハイマー性痴呆ほう傷病の総診療費を療養機関種別で区分してよく見る(表 4)

- 2007年対比 2011年の総診療費は上級総合病院 1.5倍、総合病院 1.9倍、病院 1.7倍、療養病院 5.0倍、医院1.2倍増加して全体診療費は 3.1倍増加した。

- アルツハイマー性痴呆ほう傷病の総診療費の療養機関種別シェアをよく見れば 2011年を基準に療養病院が 82.4%を占めて絶対的に高いパーセントを占めている。次に病院 (9.5%)、総合病院(4.2%)、上級総合病院 (2.0%)、医院(1.9%) 順序である。

- 年度別に種別シェアの変化推移をよく見れば療養病院の場合 2007年 60.3%で 2011年 82.4%まで持続的に増加したし上級総合病院と総合病院、病院、医院の場合 2007年以後シェアが徐々に減少した。

表 4. アルツハイマー性痴呆ほう傷病の種別総診療費及びシェア

구분	2007년	2008년	2009년	2010년	2011년
上級総合病院					
상급종합병원	5,181,553	5,992,213	7,567,617	7,815,205	8,005,140
(占有率)					
(점유율)	(4.7)	(3.2)	(3.0)	(2.4)	(2.0)
総合病院					
종합병원	9,046,224	10,146,366	12,125,540	14,448,993	16,975,388
(占有率)					
(점유율)	(8.1)	(5.5)	(4.8)	(4.4)	(4.2)
病院					
병원	23,223,689	31,591,306	31,709,044	34,237,307	38,370,500
(占有率)					
(점유율)	(20.9)	(17.0)	(12.5)	(10.4)	(9.5)
療養病院					
요양병원	67,006,976	130,641,654	196,489,287	267,345,502	333,072,143
(占有率)					
(점유율)	(60.3)	(70.5)	(77.4)	(80.9)	(82.4)
医院					
의원	6,621,236	7,065,442	5,991,356	6,494,019	7,634,063
(占有率)					
(점유율)	(6.0)	(3.8)	(2.3)	(2.0)	(1.9)
その他					
기타	20,158	21,896	24,966	35,860	69,522
(占有率)					
(점유율)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)
合計					
합계	111,099,836	185,458,877	253,907,810	330,376,886	404,126,756
(占有率)					
(점유율)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)

○ アルツハイマー性痴呆ほう傷病の来院日数を療養機関種別で区分してよく見る(表 5)。2007年対比 2011年の来院日数は上級総合病院 1.8倍、総合病院 2.2倍、病院 1.6倍、療養病院 3.9倍、医院 1.4倍増加して全体来院日数は 3.1倍増加した。アルツハイマー性痴呆ほう傷病の来院日数の療養機関種別シェアをよく見れば 2011年を基準として療養病院が 80.7%を占めて絶対的に高いパーセントを占めていた。次に病院 (10.1%)、総合病院(4.2%)、医院(3.4%)、上級総合病院(1.5%)の順序である。種別シェアの変化推移をよく見れば療養病院は 2007年 64.3%で 2011年 80.7%で持続的に増加したし残りは 2007年以後シェアが徐々に減少した。

表 5. アルツハイマー性痴ほう傷病の療養機関類型別来院日数及びシェア（単位：日、％）

	구 분	2007년	2008년	2009년	2010년	2011년
上級総合病院 （占有率）	상급종합병원	51,675	58,579	76,513	86,984	93,720
	(점유율)	(2.6)	(1.8)	(1.8)	(1.7)	(1.5)
総合病院 （占有率）	종합병원	118,746	133,593	170,849	212,065	260,594
	(점유율)	(6.0)	(4.2)	(4.0)	(4.1)	(4.2)
病院 （占有率）	병원	387,958	515,827	512,107	562,041	634,917
	(점유율)	(19.5)	(16.0)	(11.9)	(10.8)	(10.1)
療養病院 （占有率）	요양병원	1,280,607	2,336,326	3,354,259	4,175,604	5,046,517
	(점유율)	(64.3)	(72.7)	(78.3)	(80.0)	(80.7)
医院 （占有率）	의원	152,667	169,395	169,952	180,597	216,124
	(점유율)	(7.6)	(5.3)	(4.0)	(3.4)	(3.4)
その他 （占有率）	기타	733	821	1,400	1,909	3,176
	(점유율)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.0)	(0.1)
合計 （占有率）	합계	1,992,386	3,214,541	4,285,080	5,219,200	6,255,048
	(점유율)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)

2007年対比 2011年の診療実人員数は上級総合病院 1.9倍、総合病院 2.5倍、病院 3.2倍、療養病院 2.7倍、医院 3.0倍増加して総診療実人員数は 2.6倍増加した。アルツハイマー性痴ほう傷病の診療実人員数の療養機関種別シェアをよく見れば 2011年を基準で総合病院が 28.8%で一番多かったし次に療養病院が 23.2%、医院が 18.2%、病院 17.2%、上級総合病院 12.2%、その他 0.5% 順序である。

表 6. アルツハイマー性痴ほう傷病の療養機関類型別実人員数及びシェア（単位：人、％）

	구 분	2007년	2008년	2009년	2010년	2011년
上級総合病院 （占有率）	상급종합병원	10,347	11,893	16,106	18,242	19,834
	(점유율)	(16.8)	(14.7)	(15.1)	(13.9)	(12.2)
総合病院 （占有率）	종합병원	18,758	23,172	29,002	37,675	46,662
	(점유율)	(30.4)	(28.6)	(27.2)	(28.6)	(28.8)
病院 （占有率）	병원	8,834	11,706	15,999	21,451	27,852
	(점유율)	(14.3)	(14.4)	(15.0)	(16.3)	(17.2)
療養病院 （占有率）	요양병원	13,664	21,479	27,231	30,861	37,572
	(점유율)	(22.2)	(26.5)	(25.6)	(23.5)	(23.2)
医院 （占有率）	의원	9,856	12,590	17,708	22,713	29,471
	(점유율)	(16.0)	(15.5)	(16.6)	(17.3)	(18.2)
その他 （占有率）	기타	169	275	428	562	782
	(점유율)	(0.3)	(0.3)	(0.4)	(0.4)	(0.5)
合計 （占有率）	합계	61,628	81,115	106,474	131,504	162,173
	(점유율)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)	(100.0)

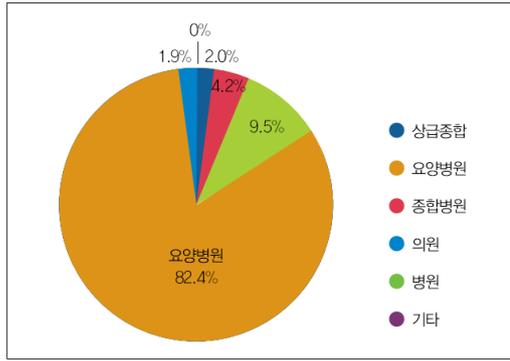


図3. アルツハイマー性痴呆ほう傷病の療養機関類型別総診療費シェア (2011)

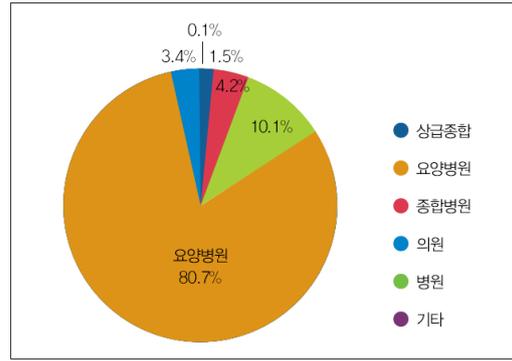


図4. アルツハイマー性痴呆ほう傷病の療養機関類型別来院日数シェア (2011)

上級総合、療養病院、総合病院、医院、病院、その他（保健所、保健支所、保健診療所、保健医療院）

○ 以上のアルツハイマー性痴呆ほう傷病の診療傾向に対する療養機関類型別分析を総合して見れば療養病院の総診療費と来院日数増加傾向がよく分かる。

- 2011年基準総診療費と来院日数全療養病院のシェアが 80%を上回り、2007 年対比 2011年の総診療費は 5 倍、来院日数は4倍に増加した。

- とくに2007年と 2008年療養病院の来院日数と総診療費皆前年比 60%以上急激に増加した。しかし同期間中診療実人員数は大きく増加しなかったので療養病院の総診療費増加は患者数の増加より来院日数の増加がもっと大きい影響を及ぼしたと判断される。

○ このようにアルツハイマー性痴呆ほう傷病の総診療費及び来院日数が急激な増加したことは痴呆ほう患者数自らの増加も原因だが療養病院の診療費が急増したことに起因した可能性が高い。また療養病院の診療費が急に増加したことは療養病院機関数の増加による誘引需要 (induced demand) もある程度水準影響を及ぼしたと判断される。実際に 2006年以後療養病院の機関数変動推移をよく見れば、2006年と 2007年にそれぞれ前年対比 78.2%、64.4% 機関数が急増し、病床数も 74.3%と 50.5% 増加したことが分かる。このような機関数と病床数増加が療養病院の痴呆ほう傷病総診療費と来院日数増加にある程度水準影響を及ぼした可能性がある。

表 7. 療養病院の機関数及び病床数推移 (2006-2011)

구 분	2006년	2007년	2008년	2009년	2010년	2011년	
療養病院機関数 (前年対比増加率)	요양병원기관수	360	592	689	766	867	988
	(전년대비증가율)	(78.2)	(64.4)	(16.4)	(12.6)	(11.6)	(14.0)
療養病院病床数 (前年対比増加率)	요양병원병상수	43,625	65,696	74,935	87,284	109,490	134,930
	(전년대비증가율)	(74.3)	(50.5)	(14.1)	(16.5)	(25.4)	(23.2)

#### 4. アルツハイマー性痴呆ほう傷病の性別総診療費及び来院日数

○ アルツハイマー性痴呆ほう傷病の総診療費及び来院日数を性別でよく見た。

- 総診療費は男性の場合2007年対比2011年は3.1倍増加し、女性は3.8倍増加した。来院日数は 2007年対比2011年に男性が 2.7倍、女性が 3.3倍増加して女性の総診療費と来院日数の増加幅は男性より大きいこと

が分かった。

- 総診療費の性別シェアをよく見れば 2011年基準男性は 22.8%、女性は 77.2%で女性の総診療費比重が 3倍以上多かった。

総診療費のシェア変化をよく見れば男性の場合、2007年は26.9%で 2011年 22.8%と減っているが、女性は2007年73.1%で2011年77.2%と徐々に増加している。

- 来院日数の性別シェアをよく見れば2011年基準で男性は22.7%、女性は77.3%で女性の来院日数が3倍以上多くなっている。

シェアの変化をよく見れば男性の場合2007年 26.1% で 2011年 22.7%で徐々に減っているし女性は 2007年 73.9%で 2011年 77.3% に徐々に増加している。

表 8. アルツハイマー性痴呆ほう傷病の性別来院日数及び総診療費

구 분		2007년	2008년	2009년	2010년	2011년
총진료비 男性 (占有率) 女性 (占有率)	남	29,912,873	44,470,595	62,099,479	77,418,347	92,023,665
	(점유율)	(26.9)	(25.2)	(24.5)	(23.4)	(22.8)
	여	81,186,964	132,062,626	191,808,334	252,958,541	312,012,653
	(점유율)	(73.1)	(74.8)	(75.5)	(76.6)	(77.2)
내원일수 男性 (占有率) 女性 (占有率)	남	520,609	755,641	1,034,520	1,221,115	1,422,466
	(점유율)	(26.1)	(24.8)	(24.1)	(23.4)	(22.7)
	여	1,471,777	2,296,924	3,250,560	3,998,085	4,831,165
	(점유율)	(73.9)	(75.2)	(75.9)	(76.6)	(77.3)

## 5. 終わりに

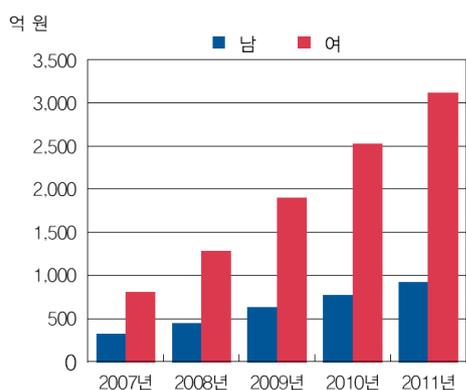


図5 アルツハイマー性痴呆ほう傷病の性別総診療費変化 (単位: 億ウォン)

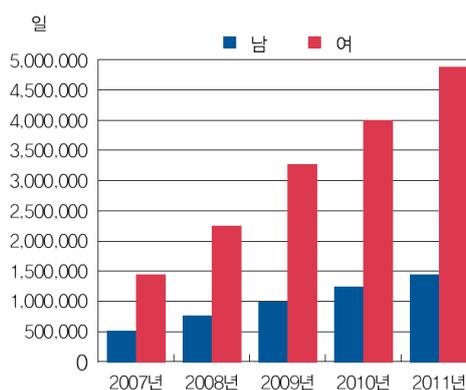


図6 アルツハイマー性痴呆ほう傷病の性別来院日数変化(単位: 日)

○ 痴呆ほうによる年間すべて診療費は 2010年基準 8,100億ウォンで老人性疾患の中で脳血管疾患の次に一番高く、1人当り診療費は310万ウォンで 5大慢性疾患より高い水準で治療及び管理による社会的・経済的負担が非常に大きい疾病<sup>1)</sup>である。

○ 痴呆ほうの中で一番多いパーセントを占めるアルツハイマーによる痴呆傷病の療養給与内容を分析した結果と、2011年基準総診療費は 4,041億ウォンにこの中入院が 3,706億ウォン、外来は334億ウォンになっている。これは 2007年と比べると総診療費は3.6倍、入院診療費は 3.9倍、外来診療費は2.1倍に増加している。

- このようなアルツハイマー痴ほう傷病総診療費の急激な増加は痴ほう傷病の治療のために療養機関を捜した実患者数の増加に起因するが(2007年対比2011年の診療実人員数は2.5倍増加) 同期間の来院日数が3.1倍に増加したことを見ても入院日数と外来訪問日数の増加も相当な影響を及ぼしたと見られる。

- これと共に先に療養機関種別分析で指摘したように療養病院の機関数及び病床数増加による誘引需要(induced demand)もある程度の水準で影響を及ぼしたと判断される。

○ 以上のようにアルツハイマー痴ほう傷病は急速な人口高齢化と平均寿命の延長などを理由に患者数が急増しており、これによる総診療費及び来院日数も早い速度で増加している。

したがって社会<sup>4</sup> 経済的費用節減と痴ほう患者と家族の生活の質向上などのために予防及び早期発見のための社会的支援体系拡充と適切な治療及び管理のための政策的代案の用意が必要である。